

監視室から展示室まで、バラエティに
富んだ照明を入れてもらいました。



永山新川管理センター
川のふるさと交流館 ささら 館長
帯川 猛美さま

本館は、旭川の街を洪水から守るためにつくられた新河川「永山新川」の管理と監視をするための施設です。そのため、館内にある操作監視室や対策室のほか、裏手には資材倉庫や土のう用の盛り土を置くなど、防水・防災時の拠点として活用できるようにしています。

また、ふだんは地域の皆さんの交流や学習の場として利用できるように、展示室や研修室なども設けています。研修室などは、けっこう地元の子供たちも利用しているんですよ。

そんなわけで大規模な施設ではないものの、エリアごとの目的によって照明もかなりバラエ

ティに富んだものを入れていただきました。1階のホールなども、すっきりとしてまぶしくないのが好評ですね。



■施工物件
永山新川管理センター
川のふるさと交流館 ささら
■建物の概要
所在地：旭川市永山町13丁目112・113-5・10
延床面積：1,610.88㎡
構造・規模：RC造・地上4階建
設計・監理：北海道開発局旭川開発建設部
施工/建築：北野・盛永・新谷経常建設共同企業体
/電気：ミヤコ電業（株）
竣工：平成15年3月



多目的研修室：32W Hf蛍光ランプ埋込器具（ルーバ付）を18台設置



エントランス：27Wコンパクト形蛍光ランプ軒下用ダウンライトを配置



1Fホール：32W Hf蛍光ランプ間接トラフ器具を使用し、開放感のある天井面を実現



操作監視室：ルーバ付器具の使用でディスプレイへの映りこみを抑えている



1Fホール間接照明部分



1Fホール吹き抜け：オートリレーにより器具が下降する

網目天井の展示室。
「見せる」配線に気を遣いました。

この施設は、使用建材などもグレードが高いものだったりして、施工担当としてやりがいのある物件でした。

なかでも展示室は、基本照明を入れた後の別途発注だったので、すり合わせには気を遣いました。展示品に合わせて配置を調整し、また天井が網目状になっているから露出した配線もきれいにやらなきゃいけない。これ、ふだんは隠すものですからね（笑）。支持間隔にも気を遣うし、施工効率とのバランスも考えないとイケませんしね。特に非常灯は、網目に重ならないようきれいに収めるのに苦労しました。

ミヤコ電業（株）
企画管理部 係長
山田 純一さま



民の交流の拠点となる施設のあかり。



展示室（河川広報ゾーン）：32WHf蛍光ランプ反射笠器具を設置。中央列のランプの色温度を変えることでアクセントをつけている



展示室（ふるさと伝承ゾーン）の照明



展示室に設置された非常灯



展示室の露出配線



北海道／旭川市
ミヤコ電業株式会社
■会社のプロフィール
所在地：旭川市東鷹栖4線10号5-1
従業員：16名
営業種目：一般電気設備工事・電気通信工事・
消防施設工事・設計・施工監理・
エコシルフィ販売道北地区総代理店
年間工事高：3億3000万円
創 立 年：昭和61年

人の和を大事にする。 これがすべてのことに 通じます。

ミヤコ電業（株）
代表取締役
横内 恵一さま

当社の仕事は電気工事からではなく、土地を探してあげることから始まるんです。とにかく、立地条件やローコストなど、建てる人の気持ちになって考える。設計事務所さんの設計をお手伝いする。お施主さまのいろんな悩みの相談に乗り、一緒になって考えていく。そういったところから仕事は生まれてきます。

単なる客と業者ではなく、人と人としておつきあいし、信頼されることが大事です。

同じことは社内に関してもいえます。人の和を大切にできれば、社員教育についても細かいことはいいません。現場に予算を預けたら私はもう何もいいませんよ。現場代理人は現場の社長ですから。そういった社風のせいか、社員同士の仲は良いですね。私の家によく集まったりするんですよ。アットホームな職場というか、和気あいあいとしています。

